

—関連施設だより—

“医療で地域を支える” の旗のもと

久保田 憲

東京都保健医療公社荏原病院

Under the Banner of Supporting a Local Community with Medical Treatment

Ken Kubota

Tokyo Metropolitan Health and Medical Treatment Corporation, Ebara Hospital

東京都区南部に属する大田区の北西部、武藏野台地の末端が舌状に張り出した台地上に位置する荏原病院は、隣接の品川区・目黒区・世田谷区を含む城南地区を主な診療対象地域とする総合病院です。その源流は明治31年、当時は荏原郡と呼ばれていた城南地区においてコレラ・チフス・痘瘡・赤痢などの伝染病に対処するために世田谷村殿山（現在の世田谷区豪徳寺付近）に設立された隔離病舎に遡ります。昭和9年に現在の大田区雪谷の地に移ってからも伝染病院としての使命を担い、昭和30年総合病院の併設を経て平成6年に現在の病舎が新築され、500床を有する総合病院“都立荏原病院”として歩み始めました。平成18年には東京都保険医療公社に移管され“医療で地域を支える”を運営理念とする公社病院の一翼を担うこととなり、平成21年には地域医療支援病院の指定を受けて現在に至っています。急性期の総合病院として20診療科に加えて中央部門としての検査・病理・放射線診断・輸血・治験の各科を加えて地域の医療ニーズに応えるべく様々な医療活動を展開しております。以下には当院の特徴的な点についてご紹介します。

4階南側の2病棟には神経内科と脳神経外科が入りSCU6床を有する総合脳卒中センターを開設しており、24時間体制で脳血管障害急性期に対応しつつ、リハビリ部門の早期介入により在宅復帰に至る一貫した脳卒中治療を展開しています。地階には年間4,000件をこなす6名収容の第2種高気圧酸素療法装置を設置していますが、減圧症・突発性難聴・ガス壊疽など多くの適応症のなかで脳卒中治療においても有用性を発揮しています。

設立の原点である感染症内科では多くの急性感染症やHIV感染症の日常診療と院内感染症管理に加え、都内に3つある第一種感染症指定医療機関のひとつとして、病院の3階北側に陰圧2病棟を備えて、一類感染症を収用する病床2床と二類感染症の病床18床を管理しています。昨年、西アフリカで広がったエボラ出血熱への対応に備えて患者受け入れ訓練を重ね、今年度はMERS疑似患者を2例受け入れました。羽田国際空港に近い感染症指定病院と



連絡先：久保田憲 〒145-0065 東京都大田区東雪谷4-5-10 東京都保健医療公社荏原病院

URL : <http://www.ebara-hp.ota.tokyo.jp/>

E-mail : thydm-kk@tokyo-hmt.jp

Journal Website (<http://www.nms.ac.jp/jmanms/>)

して今後も輸入感染症に対処するため、都の感染症対策課や空港検疫所・区保健所と連携を図って受け入れ体制を整えています。

都立から公社に移ってからも公的病院として東京都の指定を受けて、地域リハビリテーション支援・高次脳機能障害支援・脳卒中医療連携推進・認知症疾患医療センター運営・精神科医療地域連携の5事業に参加しています。中でも認知症については区南部の連携拠点病院として認知症疾患医療センターを開設し、もの忘れ外来での診療を行うほかに、地域の連携協議会を主宰して医師やコメディカルスタッフも含めた多職種への研修や一般住民への啓蒙を行っています。同時に認知症の早期診断・早期介入を目的にアウトリーチチームを配置して、大田区および品川区のコーディネーターと連携し、認知症を疑われる住民を把握・訪問して地域の医療や介護に結び付ける取り組みを積極的に行ってています。

医療法に基づく医療計画制度のなかで連携体制の構築がうたわれる五疾病にすべて対応していますが、がん医療については、がん診療連携協力病院として大腸がんで届けているほか、乳がん、肺がんなどにも力を入れ、さらに緩和ケアも専門医を配してチームの活動と外来を行っています。急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患についてもそれぞれに専門医による診療を展開しています。医療計画制度の五事業については、9系列の当直体制で年間の救急車受け入れ4,000台を超える二次救急診療、防災拠点病院としての災害時医療、年間分娩数500例を超える周産期医療、小児救急を含む小児医療の四事業に対応しています。在宅医療支援については、地元田園調布医師会と連携して地域包括ケアシステムを支える病院として、昨年、40床の地域包括ケア病棟を開設し在宅復帰に向けてのリハビリテーション医療の展開などを行っています。

これらの医療を支える医師の育成については研修支援病院として臨床研修医と東京都医師アカデミー制度下で後期研修医を受け入れています。地元の昭和大学、東邦大学を始めとする多くの大学病院の医局と人事交流を図っていますが、日本医科大学については常勤医80名中4名の出身者がおり、特に神経内科の医局とは連携させていただいており、今後とも支援をお願いしたく存じています。

(受付 2015年12月25日)